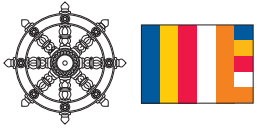


ZENBUTSU

念仏



No.
562

仏暦2553年 9月
[2010年]



京都 愛宕念仏寺の羅漢さま — 撮影 仏像ガール®

目次

加盟団体をゆく 第37回 栃木県仏教会	2
比叡山宗教サミット23周年	4
千鳥ヶ淵戦没者追善供養並世界立正平和祈願法要	4
念法眞教立教85周年報恩大法要	5
第31回全国仏教保育福岡大会	5
仏像ガール® インタビュー	6
大和証券株式会社 マイクロファイナンスの現場から	8
第41回全日本仏教徒会議栃木大会開催告知	12
第25回WFBスリランカ大会記念ツアーのご案内	12

加盟団体をゆく

《第三十七回》栃木県仏教会

第四十一回全日本仏教徒会議 栃木大会まもなく開催

今回は栃木県仏教会をお訪ねし、菅原栄光会長、塚田宗雄理事長にお話を伺いました。

栃木県仏教会は本年十一月九日・十日に第四十一回全日本仏教徒会議栃木大会を、栃木県宇都宮市にて開催すべく最終調整を進めております。(関連記事十二頁)



菅原栄光 栃木県仏教会会長 (右)
塚田宗雄 栃木県仏教会理事長 (左)

—大会テーマ「慈悲の心」
『社会参加仏教』について—

前回の大会である第四十回の神奈川県大会に参加させて頂きました。分科会・基調講演では仏教界に関する様々な提言や活発な討議がなされたのみならず、ダライ・ラマ法王の記念講演には沢山の方が集まり、大変意義深く素晴らしい大会だと感じました。

栃木大会もこうした良い流れを受け継いだ大会にしたい、との思いから数年前より大会に関するPRや準備を進め、参加意識を高める努力を続けてまいりました。七月には参加要項を各宗派の宗務庁や支所を通じて各寺院に配布し、栃木県各地区に参加を呼びかけております。

また、栃木県内のみならず、他の都道府県にお住まいの方々に是非

参加して頂きたく思っております。機関誌『全仏』をご覧になって頂いた方々や、ホームページをご覧になって頂いた方のみでなく、より多くの方に本大会を知って頂き、参加して頂けるよう広報活動を進められたらと思います。

今回の大会は、大会テーマを「慈悲の心『社会参加仏教』」とさせて頂きました。現在の社会は混迷し閉塞感があふれていますが、社会に対する期待に仏教が応えきれず、具現化ができずにあります。

その現状を打破するキーワードとなるのが社会参加仏教であります。大会初日となる九日には、有識者からの問題提起を「社会参加仏教の課題と展望」と題したシンポジウムで行って頂きます。

コメンテーター・パネラーとして山折哲雄氏(前国際日本文化研究センター所長・名誉教授)・ラシジャン・ムコパディヤヤー氏(デリー大学教授)・金子昭氏(哲学博士、天理大学おやさと研究所教授)をお招きし、山口幸照師(高野山大学准教授)がコーディネー

ターを務めます。

シンポジウム終了後は交流懇親会が開催されますので、懇親会では栃木県らしさを前面に打ち出し、参加者に楽しんで頂けたらと思います。

大会二日目となる十日には、瀬戸内寂聴氏に特別講演「忘己利他(己を忘れて他を利する)」を、船村徹氏に記念講演「我が演歌的人生考」を行って頂きます。

また、日光山輪王寺に伝承される秘伝の舞である「延年の舞」が特別に披露されます。この舞は伝承によれば嘉祥元年(八四八年)に慈覚大師円仁が唐から招来し、日光山に來山された折りに伝えられたとされる秘舞曲とされており、現代では特に新任の住職が必ず修すべき法務となっております。

この供養の舞に参加者の皆様にご披露させて頂くとともに御本尊に奉納し、天下泰平・国土安穩を祈念したいと思っております。

他、オプショナルツアーとして世界遺産である日光輪王寺の観光ツアーも記念講演終了後に行いま



日光山輪王寺に伝承される「延年の舞」

す。(要事前申込)

― 大会開催にあたり

期待している事、

今後計画している事は？―

本大会が開催される宇都宮市は、新宗教団体が本山を数多く構えている場所でもあります。本大会を通じて私達伝統仏教教団が何を考えているかを発信し、心を一つにして仏教ボランティアや社会貢献という共通目標へと進んでいく事ができれば、それが一番の成功ではないか、と思います。

また、栃木県仏教会では会報の発行や毎年研修会の開催、後援等

を行い栃木県内の各地区仏教会と

連携・協働をはかっておりますが

全ての寺院が県仏教会に参加頂い

ているわけではありません。栃木

県には九〇〇ヶ寺以上の寺院がご

ざいますが、住職がいくつかのお

寺を兼務している場合もございま

すので実際に住職が居る寺は七〇

〇ヶ寺ほど、そのうち県仏教会に

参加しているのは約半数です。

市町村合併で地区仏教会が減少

してしまった地域は全国でも沢山

あると思いますが、栃木県も例外

ではございません。本大会の開催

がそうした状況を打破する起爆剤

になってくれたら、という期待は

ございます。

また、このような大規模な大会

を常時開催することは難しいです

が、もっとコンパクトな大会を栃

木県内で毎年開催し、大会の成果

を継続して未来に生かして行くこ

とは非常に重要な事だと考えてお

ります。今後、そうした計画を考

えていければ、と思います。

― 現代社会、仏教界に対する

思いをお聞かせ下さい―

経済的事情とは関係なく、葬儀

を行わない、もしくは直葬でとい

うケースが増えてきたように感じ

ます。結婚式に関しても同様で、

一切儀礼的なものを行わず、人前

での挨拶だけで済みますケースも

段々増えてきたように感じます。

お寺での法要であったり、お墓

参りであったり、結婚式であつた

りといった冠婚葬祭は家族・親戚

縁者が揃い、家族内の繋がりを強

化すると共に命の大切さを実感で

きる数少ない場所でした。そうし

た場が失われていってしまった事

が、今日の悲惨な事件の続発や離

婚率の上昇と全く無関係であると

は思えません。

母親から生まれてこなかった子

はいないにも関わらず、親や先祖

に感謝の念を抱けない人が、他人

に対して感謝できるのでしょうか。

我々宗教者が人と人とのつながり

の心の大切さを、あらゆる場所で

今以上にアピールする必要がある

でしょう。

― 全日本仏教会に対する

ご要望やご意見を

お聞かせ下さい―

全日本仏教会加盟の宗派、都道

府県仏教会、各種団体の持つ情報

を相互に共有できるよう、情報収

集及び提供を行って頂けると大変

助かります。

また、公益法人制度改革や寺院

に関する法律等に関するエキスパ

ートの方を講師として派遣頂けた

り、紹介して頂けるといった事が

もし可能ならば大変ありがたいと

思います。

※ 第四十一回全日本仏教徒会議

栃木大会に関する詳細、お問い

合わせ先等に関しては十二頁お

よび全日本仏教会ホームページ

に掲載予定です。

<http://www.jbfn.jp>

**比叡山宗教サミット二十二年
「世界平和祈りの集い」**

八月四日に「世界平和祈りの集い」が滋賀県大津市の比叡山延暦寺で開催され、約千人が参集。本会より戸松義晴事務総長が参列した。

比叡山宗教サミットは、宗教・宗派を超えて宗教者が集い、平和の祈りを捧げる行事であり、「天台青少年比叡山の集い」も同時に開催されている。

般若心経等による法楽の後、半田孝淳天台座主により平和祈願文が読み上げられた。文中では昨年よりWCRP（世界宗教者平和会議日本委員会）をはじめ宗教的信条に基づく組織が全世界で展開している核兵器廃絶及び軍事費の10%削減への署名キャンペーン「ARMS DOWN！」が紹介され「世界平和実現のために宗教コミュニティが取り組んでいる実践的活動の一つ」と述べた。

その後、仏教、キリスト教、イスラム教、神道、新宗教など各団体の代表が壇上へ登り、「平和の鐘」の音が響く中、参加者全員起立にて黙祷が捧げられた。仏教

界代表として
は阿部
龍文真
言宗智
山派管
長が登
壇した。

その後、長
崎カト
リック大司教区大司教高見三明師
が「平和を語る」と題し挨拶。

海外からはローマ法王庁のデ・カステッロ大司教が挨拶、WFB（世界仏教徒連盟）パン・ワナム（世界仏教徒連盟）パン・ワナム

青少年会からユニセフへの寄付金を寄託し「平和の合い言葉」唱和の後に閉会。レセプション会場の琵琶湖ホテルへ移動した。

レセプションでは、戸松義晴事務総長が「世界平和の祈りの集いは、全日本仏教会設立の際の理念を具現化した取り組みであり、今年までそれが欠かさず続いているのは非常に意義あること」と祝辞を述べ、和やかな雰囲気の中、閉会となった。



壇上で祈りを捧げる宗教者代表

**千鳥ヶ淵戦没者追善供養
並世界立正平和祈願法要**

日蓮宗主催「第五十二回千鳥ヶ淵戦没者追善供養並世界立正平和祈願法要」が八月十五日午前九時から行われた。当日の天候は、炎天酷暑の真夏日となり、用意されたテントの中は参列者の体温と相まって当に戦地や空襲で亡くなった方々の平和を希求する熱い思いを表すような陽気となった。

法要の導師は、渡邊照敏宗務総長、副導師に東京四管区の宗務所長と僧侶たちが式衆となり、進められた。渡邊宗務総長は、「諸霊に報いる道は係る無念を晴らすに非ず、萬霊が命を賭して祈り求めし身心安穩なる平和世界を此の地上に築き上げることにであると覚知せり」と表白した。

式中、日蓮宗寺院の檀信徒である谷垣禎一自由民主党総裁、逢沢一郎衆議院議員、佐藤ゆかり参議院議員、法華一乗会の武見敬三氏や全日本仏教会の奈良慈徹総務部長らが呼名焼香を行った。

続いて、参列の檀信徒や武道館

で開催される政府主催の「全国戦没者追悼式」へ出席する各地の遺族会の方々など四〇〇名以上が焼香を行った。

その後、日蓮宗伝道局長の駒野教源師、(財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の馬野毅彦理事長が挨拶を行った。馬野理事長は、新たに納められた御遺骨を含め、約三十六万柱が眠る墓苑を守り継いでいくことが私たちの責務と語った。

午前十時法要が終了後、小憩。青年僧侶らが「世界立正平和祈願」を旗印に池上・本門寺と谷中の寺町方面等に分かれて、玄題旗を先頭に団扇太鼓を持ち、唱題行脚を行った。



焼香を行う参列の檀信徒及び遺族会の方々

念法眞教立教八十五周年報恩大法要

大阪市鶴見区の念法眞教総本山金剛寺において八月二日、立教八十五周年を記念し報恩大法要や記念式典が執り行なわれ、有縁の宗教界、経済界、信徒約千六百人が参集した。本会からは有田恵宗理事長、戸松義晴事務総長が出席。

念法眞教は立教八十五年祭として本年四月一日の開白法要から来年三月三十一日まで本山行事、ブロック大会、全国支院大会、記念パネル展などを展開しており、本山記念行事の一環として行われた。

大法要は午前十時より祈願本堂で始まり稲山靈芳三代燈主が導師を勤め、桶屋良祐教務総長と長谷川靈信長老が出仕し、信徒と共に阿弥陀経や念法眞言、念法開祖ご法号などを唱えた。

法要後、稲山燈主は「八十五周年を迎えたことに報恩感謝するとともに、信徒一丸となって住みよい世の中づくりに邁進したい」と挨拶。

その後、有田恵宗理事長、半田孝淳天台座主の代理として森川宏映探題、田中恆清神社本庁総長、出口紅大本教主らが祝辞を述べて八十五年の歩みをたたえた。

午後からは会場を大阪市内のホテルに移し祝賀会が開催。松長有慶高野山眞言宗管長、増田眞圓大阪府仏教会会長他多数の来賓が祝辞を述べ、今後の発展を祈念し終始和やかな雰囲気のまま閉会となった。



祝辞を述べる有田恵宗理事長

全国仏教保育福岡大会開催

本会の加盟団体である社団法人日本仏教保育協会主催の第三十一回全国仏教保育福岡大会が七月二十九、三十の両日、福岡市中央区の筑紫女学園中学・高等学校で開催され、本会より東田樹治総務部次長が出席した。

同協会では全国大会を隔年で開催しており、今回は第一回大会が開催されてから六十年目にして初の九州大会という記念すべき大会となった。大会テーマは「いっしょに大きくなりまっしょい!!」かけがえのないいのちを大切に―」当日は全国の加盟園・養成校などから教職員を中心に約八百人が参加、寺院関係者も多数見受けられた。

二十九日の開会式では上村映雄日本仏教保育協会理事長が「仏教保育の『いかせいのち 生命尊重の保育実践』のスローガンは時代が変化しても決して変わることはない」と挨拶。他、麻生渡福岡県

知事、吉田宏福岡市長、鳩山邦夫仏教保育振興国会議員懇話会会長が祝辞を述べた。

記念講演は福岡県出身の作家・五木寛之氏が「いまを生きる」と題して講演。「プラス思考一辺倒の生き方」に反省を促し、「鬱」状態に積極的な価値を見いだす必要性を語った。

また、劇団「風の子九州」の記念公演はジャータカ物語の「月のうさぎ」を題材にした人形劇が披露された。

三十日は分科会として仏教保育や食育、施設の危機管理、メディアとの関係等十三のテーマの研修やワークショップが開かれた。

次回大会は平成二十四年八月に栃木県にて開催予定。



開講式の様子

人間の素晴らしさを

皆さんに伝えたい

(対談) 仏像ガール®×戸松 義晴

父親の死を通して

戸松義晴 (以下…戸松)

本日はお忙しい中、全日本仏教会にお越しいただき、ありがとうございます。ございます。

仏像ガール® (以下…仏像ガール)

こちらこそありがとうございます。

戸松 この度は、全日本仏教会機関誌『全仏』の表紙に写真を提供していただくということで、お話を伺いさせていただきます。

仏像ガール 宜しくお願ひします。

戸松 私が最初に感じましたのは上智大学で学ばれたということ。どちらかというとうちはキリスト教ですね。

仏像ガール そうですね。

戸松 なぜ仏像に興味を持たれたのかを、お話いただければ。

仏像ガール 大きなきっかけは、



戸松 義晴
1953年東京都出身。ハーバード大学神学校において、神学修士取得。現在、浄土宗心光院住職、全日本仏教会事務総長他。著書に「Never Die Alone」「仏教ターミナルケア—エイズホスピス寺院から学ぶもの—」等。



仏像ガール®
1979年神奈川県出身。上智大学比較文化学部卒業。現在、仏像ナビゲータ、奈良国立博物館文化大使(本名ではなく、仏像ガール®として活動)。著書に「感じる・調べる・もっと近づく仏像の本(山と溪谷社)」等。

中学生で父の死を経験した仏像ガール®。死をきっかけに自身のいのちを見つめ、現在は仏像を通して人間の素晴らしさを伝える仕事をされています。仏像や人間に対しての思いをお話いただきました。(今月号より表紙写真を提供して頂きます)。

中学三年生で、大好きだった父を亡くしたことでした。私が小学六年生のとき、父は余命三ヶ月と宣告されました。人の死を経験したことがなかった私は、誰かが死ぬことが悲しいことなのか、つらいことなのかよくわかりませんでした。結局、それから三年後に他界しました。生前使っていたベッドに横たわった父の身体に触れたとき、とても冷たく、硬かったことを覚えています。人の死を初めて体験しました。

戸松 なるほど。仏像ガール それまで、いのちというものをすごく簡単に思っていたんです。簡単に「死んじゃいたい!」って思ったり。でも、大好きだった父の死を目の前にしたら「死んだらどこにくだらう」「いのちってなんだらう」という思いが出てきました。それで、死ぬことが怖くなってしまったんです。その怖さからどうにか逃れられないかと考え、お寺に行くようになりました。

戸松 それはご葬儀のお寺さんに。仏像ガール いえ、自宅近くの鎌倉のお寺がほとんどでした。様々な本を読んだことがきっかけで、お寺をまわりはじめたんです。

ヒンドゥー教のお話などを読んでも、世界には死ぬことを怖がらない人たちがいることを知りました。死を怖いと思っていた私にとってこんなにも安らぎを与えてくれる宗教のちからを感じたのです。日本は無宗教だと勝手に思いこんでいたのですが、仏教があると気づき、お寺を巡るようになりました。

知識が全くなくても、お寺に足を運び始めると、ほっとする感覚になりますね。

戸松 お寺の境内に入るとそういう感覚になりますね。

仏像ガール そうなんです。自分の思いが、ふわっと解かれるような感覚というか。

戸松 なるほど。

仏像ガール そして高校生のとき京都の三十三間堂に訪れました。

お堂の中に足を踏み入れて、観音様が並んでいる光景を目の当たりにしたとき、涙が溢れて止まらなかつたんです。感動しました。仏像や仏教のことを何も知らないのに。人間ってすごいと思ったんですね。

戸松 人間ってすごいと思ったんですね。仏像ではなくて。

仏像ガール そうなんです。自分と同じ日本人によって、観音様が千体も並ぶ光景がつくられた。それを守ってきた人、拜んできた人がいて、今私が目にすることができる。すべてが奇跡のように思えて、本当に感動したんです。

それまで、人間ひとりのちからはとでもちっほけだと思っていたけど、そうじゃないって。それが初めて仏像と出遇った体験でした。

仏像は生きている

戸松 お話を聞いていると、お父様の死を通して、仏像と出遇い、人間のちからに感動されたのですね。そういう中で、写真を撮られています。そういう中で、写真が撮られているに於いて、どのようなことを思っていますか。

仏像ガール 写真は一つの方法なんです。お話をするように、仏像に対して私の抱く思いが、そのまま表現されたらいいと思います。私にとつての仏像の魅力というのは人間のちからなんです。

戸松 先程出てきた「人間ってすごい」という感動ですね。

仏像ガール そうです。仏像というのは、対面したときに、感動したり、鳥肌がたつたり、圧倒されるものだと思うんですが、元々は人間がつくったということ、人間が大切に守ってこなければ、今

存在しないんですよ。人間がいたからこそ今遇うことができる。

それはどんな仏像にも共通することだと思えますね。守ってきた人の思い、人間の思いが込められ

仏像によって救われる人がたくさんいると思います。

また、お堂の中の仏像や、道ばたにいらつしやるお地藏様にカメラを向けたとき、お守りしてきた

人々の思いも伝えていたらいなと思います。お供えのお花だったり地域の人たちが濡れないうようにつくった屋根だったり。あるがままの空気を伝えたいですね。

戸松 仏像に込められた、仏像をつくってきた人間の素晴らしさを皆さんにお伝えしたいと。



ているからこそ、仏像はただの彫刻ではなく、魂が入って生きていると思うし。

戸松 仏像は生きていると。

仏像ガール そうです。やっぱり

きた私たち人間だって素晴らしいよ、優しいよって心から思います。(紙面にはインタビューの一部を掲載しております。続きはHPをご覧ください) <http://www.jbfc.jp/>

覧下さい) <http://www.jbfc.jp/>

マイクロファイナンスの現場から

一般財団法人 国際開発センター 主任研究員 鳥海 直子

《途上国の人にとって金融サービスが使えるとはどのような意味があるのか?》

そもそもお金のない人々にとり、金融サービスを使えるとはどのような意味があるのか。途上国の人々は様々な方法で生計を立てています。農牧林水産業など第一次産業を主たる生活の糧とする人々が多いアフリカでは、それだけで家族全員が一年間、一日三食食べることは難しい家庭も多いです。人々は年間を通して食物を確保するべく様々な工夫をしますが、収穫期から次の播種（種まき）の時期までは食べられるものの、播種から次の収穫期までの間には貯蔵しておいた農作物がだんだんと底をつき、特に収穫直前のやりくりがとて苦しくなることも多いです。

を安心して預けられる機関がなければ、農産物、ラクダ、牛、ヤギ、羊、鶏などの家畜、貴金属、あるいは缶の中のためのなどの形で貯蓄します。しかし、穀物を貯蔵しても時間とともに品質も劣化し、ネズミなどに食べられることもあります。家畜の場合、早魃などで死ぬと再度購入して大きくするには三〜四年かかり、また盗まれることもあります。貴金属や自宅での現金の保管も同様です。それ故に現金の形で預けることで必要な時に必要なだけお金を引き出して食べ物を購入したり、子供の学校の費用や薬代、交通費などにあてたり不測の事態に備えたいという要望は強いのです。

また雨が少なく自然条件が厳しい国々では、第一次産業だけで生活することが難しく、都市や他国で働く家族、あるいは農閑期に都市へ出稼ぎに行った家族からの送金で生活資金を補っている場合も多いです。しかし銀行や郵便局などの窓口でお金を受け取れる人ばかりではありません。そもそも途上国で送金を扱う金融機関は限られている上、居住地の近隣にたくさんあるとは言えません。また、あったとしても字が読めない、あるいは計算ができないといった人々にとって、金融機関の窓口に行くことは心理的にも大きな負担となります。金融機関の職員が窓口で顧客に対して横柄・傲慢な態度をとる事例も聞かれます。国際バスの運転手に頼み、バス停で待つ家族に仕送りを渡している話も聞かれます。このような状況において、人々が便利で安全な送金サービスを使えることは大きな意味を持ちます。

貯蓄や送金に加えて、生計を立てるためのお金も勿論必要です。農業だと種子や肥料、農薬などを必要な時期に必要なだけ購入するためのお金が必要となります。また小さなお店を開いたり石けんやジュースなどを作ったりする小規模ビジネスを行う際にも最初の元手となるお金は必要です。

《貧しいからこそいろいろな金融サービスが必要》

貧しい人々は様々な手段でお金を貯め、お金が必要な時には貯蓄を使ったり、親戚、友人、知人、隣人等から短期間、無利子で借りたり、高利ではあるが必要な資金をすぐに貸してくれる貸金業者から借りたり、マイクロファイナンス機関等から借りたり、多様な手段を使い分けてやりくりをしています。貧困家庭であるほど少額のお金を出し入れする機会が多く、生計を維持する上でその管理がとて重要となっています。貧しいから金融サービスが不要なのではなく、貧しいからこそ、いろいろな方法を駆使して日々のやりくりをする必要があります。

《アフリカのマイクロファイナンス職員の活動》

貯蓄、貸付、送金等多様な金融サービスを提供することで、マイ



返済金の集金（ガーナ）

クロファイナンスは人々がよりよい生活を営む一助となっています。その半面お金と時間と人手をかけて顧客のモニタリングを適切に行わないと、マイクロファイナンスは事業として成り立ちません。特に人口密度が低く、広大な土地のあちこちに集落が点在するアフリカ諸国では、職員が定期的に顧客を訪問することは大変ハードです。あるマイクロファイナンス事業者はできるだけコストをかけずに顧客グループを回るため、職員はバ

スなどの公共輸送手段を使って事務所から村の近くまで幹線道路を移動し（時には百km前後移動）、そこからバイクや自転車を借りて幹線道路から離れた奥地のグループのある村まで行きます。何の輸送手段もなければ炎天下を歩きますが、十km程度は徒歩圏だそうです。また、顧客のグループミーティングが朝一番の時は、前夜からその村の電気も水道もないメンバーの家に泊めてもらおうそうです。このような仕事は若くて体力のあるスタッフでないと務まらないとのこと。また、顧客とのコミュニケーション能力もとても重要です。特に農村部には字が読めない顧客も多く、元本と金利を定期的に返済すること、貸付条件、返済方法、メンバー相互による保証など、マイクロファイナンス事業者が提供するサービスを実施する上で必要不可欠なことについて根気強く、忍耐強く説明する必要があります。せっかくだと説明しても、次回村

に行ったときにはすっかり忘れられ、最初から説明することもよくあるそうです。また家庭問題の相談や、村の人のお葬式や結婚式への参加もあり、事務所までネクタイを締め、お客を待っていればよい仕事ではありません。

このようにハードな業務のため、金融サービスを受けられない人にサービスを提供したいとの志を持って働き始めても途中でやめていく人も何人もいるそうです。

《マイクロファイナンスの今後》

マイクロファイナンスへの需要は高い半面、労働集約的な産業であり、必要な手間ひまを考えるとそう簡単に顧客数を増やすことはできません。あるマイクロファイナンス事業者は、「最初は時間も手間もかかり難しい。しかし、一端事業が軌道に乗れば、時間をかけてサービスを使える顧客数を増やしていくことは可能だ」と思う」と話していました。二〇〇六年に



農村のグループミーティングで返済金の回収（ガーナ）

ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のモハメド・ユヌス博士が「金融サービスを使えることは人権の一つ」と明言したように、生計の維持・向上につながる金融サービスを使える人の数が少しずつでも増えていくとよいと思います。

（鳥海氏のコラム「マイクロファイナンスの現場から」は、大和証券のHPでもご覧いただけます。

<http://www.daiwa.jp/>

microfinance/index.html

『アメリカ仏教——仏教も変わる、アメリカも変わる』
武蔵野大学教授 ケネス・タナカ著

世界の仏教徒は約五億人と言われている。その大半はアジアに存在するが、近年、アメリカをはじめとする欧米諸国においても仏教人口は着実な伸びを見せている。現在、アメリカの仏教徒は約三百万人であり、一九七〇年代半ばから十五倍も上昇し、合衆国の全人口の約一パーセントに当たる。

そして、仏教の各宗派が世界でも多く集まっている都市が、アメリカの第二の都市と言われるロサンゼルスなのだ。ここには、アジアから伝わった八十を超える宗派が共存している。

本書は、アメリカにおける仏教のこの目覚ましい発展を、その現状、特徴、歴史的發展、及び原因という視点から分かりやすく解説した、日本で初のアメリカ仏教の総合概説書と言えるだろう。大学出版の書籍でありながら、アメリカ仏教を象徴する魅力的な様々な写真がこの一冊の中で堪能でき、また、僧侶と学者の顔を持つ、著者のアメリカ仏教の当事者としての体験談も豊富に含まれ、読者には新鮮

で且つ親しみやすい本となるであろう。

このアメリカ仏教の伸びは、仏教伝播史の視点からも、いくつかの画期的な変化をあらわしている。例を一つあげると、長い歴史の間、仏教が乗り越えられなかった「西洋の壁」がある。つまり、仏教は西ではなく常に東へと進み、この結果東洋の代表的な宗教になった。それが、現在のアメリカ仏教の発展により、仏教が「西洋の壁」を乗り越え、近代の宗教として西洋への本格的な進出を実現化しつつあるのである。

本書『アメリカ仏教』は、このような現代的要素を含むアメリカ仏教全般を述べており、日本仏教を新しい視点から考え、改善、改革を目指す人々には貴重な参考書となるであろう（著者による紹介）。

定価二、一〇〇円（税込） 三三八頁
武蔵野大学出版会
電話 〇四二―四六八―三〇〇三



インパクト・インベストメント ～投資を通じた社会貢献～ 大和証券の取り組み

◆インパクト・インベストメント

欧米では今、“インパクト・インベストメント（Impact Investment）”という新たなトレンドが動き出しています。インパクト・インベストメントとは、経済的な利益を生み出すと同時に、**貧困や環境などの社会的課題に対して、より直接的で即効性のある解決を目指す投資**のことです。投資リターンのみならず社会的リターンも期待できる、新しい投資のかたちといえます。

◆社会的課題の解決に向けて-大和証券の取り組み-

大和証券ではこれまで、途上国の子どもたちへの予防接種活動を支援する『ワクチン債』等、社会貢献につながるインパクト・インベストメント商品を販売してきました。

資金を必要としている人と資金を持つ人をつなぐという証券会社本来の役割を通じ、投資家の皆さまとともに、貧困をはじめとするさまざまな問題の解決に寄与していきたいと考えております。

冊子 無料進呈

冊子の内容を更新いたしました。

未来を創る投資
インパクト・インベストメント
～投資を通じた社会貢献～

ご希望の方はFAXもしくはハガキにてお申込みください。

※2010Summer版をお届けいたします。

請求先：大和証券(株)

法人サポート部 公益法人担当係

宛 先：〒100-6752 東京都千代田区丸の内1-9-1
グラントウキョウノースター

FAX：03-5555-0701

ご記入事項：貴法人名、所在地、お電話番号、ご芳名、所属・ご役職

※数に限りがございますので、品切れの際はご容赦ください。
※ご記入いただいた情報は、当社または関連会社、提携会社の商品・サービス等のお客さまへのご案内、および商品開発やサービス向上のために利用させていただくことがございますので、あらかじめご了承ください。



大和証券

Daiwa Securities

※インパクト・インベストメントの詳細は、大和証券ホームページ内の特集ページでご覧いただけます。

※全日本仏教会ホームページの賛助会員一覧

「団体会員 大和証券(株)法人サポート部」からもご覧いただけます。

www.daiwa.jp/impact

大和証券ホームページ www.daiwa.jp

事務総局録事

七月（一日～三十一日）

- ▼ 一日 ▼ 東京お盆まつり出席（銀座
ブロッサム中央）
- ▼ 局内会議
- ▼ 二日 ▼ 第二回総務財政審議会
- ▼ 長崎県仏教連合会へ本会事業説明（ホテルニュー長崎）
- ▼ 五日 ▼ 栃木県仏教会取材（宇都宮
グランドホテル）
- ▼ 新事務総局員面接
- ▼ 六日 ▼ 日本宗教連盟第二回理事会
出席
- ▼ 三井記念美術館主催「奈良
の古寺と仏像」内覧会・レ
セプション出席（三井記念
美術館）
- ▼ 朝日ビジネスソリューションシ
ョ
ン来局
- ▼ P C A 来局
- ▼ 八日 ▼ 全国宗教用具協同組合来局
- ▼ ビーエス観光来局
- ▼ 無料法律相談室
- ▼ 厚生労働省遠藤氏来局
- ▼ 九日 ▼ 局内会議
- ▼ 近畿日本ツーリスト来局
- ▼ 十二日 ▼ T O P ツアー来局
- ▼ 奈良康明師を訪問
- ▼ J T B 来局
- ▼ 真宗大谷派東京教区東京
宗務出張所田代賢治所
長・大谷俊浩次長来局
- ▼ 十六日 ▼ 滋賀県仏教会へ本会事業
説明（西教寺）
- ▼ 朝日ビジネスソリューションシ
ョ
ン来局
- ▼ 二十日 ▼ エジプト大使館ナシヨナ
ルデーレセプション出席
- ▼ 日本 S C 来局
- ▼ 二十二日 ▼ 仏像ガール® 来局
- ▼ 二十三日 ▼ 参議院議員佐藤ゆかり
氏来局
- ▼ 無料法律相談室
- ▼ 二十六日 ▼ 公益法人に関する相談
（虎ノ門・公益認定等
委員会事務局）
- ▼ 局内会議
- ▼ 東映（株）村松氏来局
- ▼ 二十七日 ▼ 井上春生氏（映画）来局
- ▼ オメガコム来局
- ▼ 藤谷光信議員秘書脊尾
氏来局
- ▼ 二十八日 ▼ 首都圏記者・懇談会出
席（本願寺築地別院）
- ▼ 全日本仏教会関西支局
運営委員会・局内会議
（京都 春神）
- ▼ 二十九日 ▼ 第二回社会人権審議会
第三十一回全国仏教保
育福岡大会出席（筑紫
女学園中学・高等学校）
- ▼ 第四十一回全日本仏教
徒会議栃木大会実行委
員会出席（宇都宮グ
ラ
ンドホテル）
- ▼ 日本財団中川氏来局
- ▼ J T B 来局
- ▼ プीケット日本人会大
野副会長来局
- ▼ 三十日 ▼ 民主党朝賀氏来局
- ▼ 中外日報来局
- ▼ 全国宗教用具協同組合川
本氏来局
- ▼ J T B 来局
- ▼ 全日本仏教会会長・副会長
懇談会（妙心寺）
- ▼ シンポジウム会場下見（秋
葉原コンベンションホール）
- ▼ 三日 ▼ 井上氏・原氏来局
- ▼ 参議院議員会館訪問
- ▼ 四日 ▼ 比叡山宗教サミット出席
（比叡山延暦寺）
- ▼ 五日 ▼ 第二回宗教教育推進委員会
- ▼ 六日 ▼ B N N 企画委員会出席（庭
野平和財団）
- ▼ 朝日ビジネスソリューションシ
ョ
ン来局
- ▼ 野村証券来局
- ▼ 九日 ▼ 局内会議
- ▼ オメガコム来局
- ▼ 十日 ▼ 首相及び閣僚の靖国神社公
式参拝についての要請文を
福山哲郎内閣官房副長官に
手交（首相官邸）

八月（一日～十日）

- ▼ 二日 ▼ 念法真教立教八十五周年記
念法要参列（総本山金剛寺）

**無料法律
相談室**

長谷川正浩弁護士、
第二、第四木曜日の
午後開催しております。
本会事務総局03
(3437)9275へ事前予
約の上おいで下さい。

第41回 全日本仏教徒会議 栃木大会開催要項

大会テーマ **慈悲の心「社会参加仏教」**

第1日目 11月9日(火) 12時受付開始

会場 宇都宮グランドホテル

開会式・シンポジウム・加盟団体代表者会議・交流懇親会

※シンポジウム「社会参加仏教の課題と展望」には、どなたでもご参加が可能です。是非ご参加下さい。(参加費 2,000円)

第2日目 11月10日(水) 9時15分受付開始

会場 宇都宮市文化会館大ホール

記念式典・特別講演(講師 瀬戸内寂聴)

記念講演(講師 船村 徹)

オプションツアー「世界遺産・日光輪王寺」

(9月30日までに下記事務局にお申し込み下さい)

主催 財団法人 全日本仏教会 栃木県仏教会

お問い合わせ

第41回全日本仏教徒会議栃木大会事務局

電話 028-635-3551 FAX 028-635-3553

他、詳細は全日本仏教会ホームページをご覧ください。



WFB創立60周年記念祝典 第25回世界仏教徒会議 スリランカ大会記念ツアー参加者募集

■ご旅行期日 平成22年11月15日(月)～11月20日(土)(4泊6日)

■ご旅行代金 お一人様 177,000円

・空港税、燃油サーチャージ(約15,700円)が別途かかります。

■募集人員 成田発30名様(最小催行15名)

■参加資格 全日本仏教会加盟団体関係者

■ご利用予定ホテル:

コロンボ/コロンボヒルトン

ダンブラ/ヘリタンスカンダラマ

■利用航空会社: スリランカ航空

■申込み締め切り日: 10月8日(金)

(ただし、定員になり次第締切)

お問い合わせ・お申し込み先 全日本仏教会

TEL 03-3437-9275

FAX 03-3437-3260

旅行に関する詳細は全日本仏教会ホームページをご覧ください。

(<http://www.jbf.ne.jp/>)

企画: 財団法人 全日本仏教会

旅行取扱: JTB法人東京第一事業部



ダンブラ石窟寺院

主な訪問先と参加行事(予定)

- ・WFB創立60周年記念祝典
- ・聖地キャンディ(世界遺産)
(キャンディ湖、仏歯寺など)
- ・シギリヤロック(世界遺産)
- ・古代仏教都市ポロンナルワ(世界遺産)
(宮殿跡、涅槃像など)
- ・ダンブラ石窟寺院(世界遺産)
- ・コロンボ市内観光